

勝利したプロレタリアートは…エンゲルスの手紙

第 39 卷「帝国主義論ノート」 ノート《帝国主義》P640-641

エンゲルス. 1882 年 9 月 12 日の手紙¹⁾

フリードリヒ・エンゲルスの手紙 (1882 年 9 月 12 日)

[《ドイツで植民地運動が始まってからすでに 4 分の 1 世紀 (1907 年 - 1882 年 = 25 年) になる. この植民地運動を研究するために私はかつてフリードリヒ・エンゲルスに, イギリス労働者はイギリス植民地にどのような態度をとったか, とたずねたことがあった》]²⁾

〈これにたいしてエンゲルスは, 1882 年 9 月 12 日に, つぎのように答えた.

《イギリスの労働者は植民政策についてどう考えているか, とのおたずねですが, それは一般に彼らが政治について考えているのとまさに同じようにです…
…じじつ, 当地には労働者党などはなく, あるものは保守党と急進自由党だけであり, 労働者はイギリスの世界市場独占と植民地独占のおすそわけに気楽にあずかっている³⁾. 私の考えでは, 本来の植民地, すなわちヨーロッパ人の住民が占拠している国々, カナダ, ケープ・コロニー, オーストラリアは, みな独立するであろう. それに反して原住民がいる, 支配されているだけの国々, インドやアルジェリアや, またオランダ, ポルトガル, スペインの諸領土は, 一時プロレタリアートが引きついであるだけはやく独立させるようにしなければならない. この過程がどうすすむかを言うことは困難である. インドはおそらく, 革命をおこすだろう. これは, 大いにありそうなことでさえある.
そして自分を解放するプロレタリアートは植民地戦争をおこなうことはできないから, 成行きにまかせるほかはないであろう. もちろんこのばあいには, あらゆる種類の破壊をとまわすにはすまないであろう. だがこうしたことは, すべての革命につきものである. ほかの場所でも, たとえばアルジェリアやエジプトでもこれと同じことがおこるかもしれない. そしてたしかに, それがわれわれ自身にとっても⁴⁾ いちばんよい. われわれには国内にしなければならない仕事は十分にあるだろう. まずヨーロッパや北アメリカが改造されれば, それはすばらしい力をあたえ, すばらしい模範となるから, 半ば開化した国民はまったくすすんでそのあとからついていくであろう. 経済上の必要だけからでも, そうならざるをえないのだ. だが, そのあとでこれらの国々が, 同じように社会主義的組織に到達するまでに, どのような社会的および政治的段階をとらなければならないか, それについて, いま仮説を立てても, かなりむだなものにしかなるまいとおもう. ただつぎの一事だけはたしかである. それは勝利したプロレタリアートがどんな種類の幸福であれ他民族におしつけるなら, かならず自分自身の勝利をくつがえすことになる⁵⁾ということである. こう言ったからといってもちろん, いろんな種類の防衛戦争を排除するものではない⁶⁾.

NB
(注目)

NB
(注目)

1) エンゲルスの手紙 (カウツキーのまえがきとあとがきとをつけて) は, カウツキーの

- 小冊子（前掲—社会主義と植民政策—）の終わりに付録としてつけられた。—編集者
- 2) エンゲルスの手紙へのまえがきであるこの段落をレーニンは抹消している。—編集者
 - 3) 本全集，第 22 巻，328 ページを参照。—訳者
 - 4) カウツキーの小冊子での強調。—編集者
 - 5) カウツキーの小冊子での強調。—編集者
 - 6) 本全集，第 22 巻，412 ページを参照。—訳者